

令和2年度

中部地区

参加無料

定員 80 名

申込先着順

# 橋梁技術発表会 及び 講演会

新型コロナウイルスの感染拡大により中止となる可能性があります。

コロナ対策を考慮  
定員変更の可能性有

13:00~13:10 開会の辞 【未定】

## 第1部(技術発表)

13:10~13:50 製作小委員会

- 製作・溶接・防食に関する研究  
～ 製作小委員会における最近の活動報告 ～

休憩

14:00~14:40 床版小委員会

- 疲労に強い鋼床版と取替え鋼床版  
～ 近年の橋建協の取り組み ～

14:40~15:20 海外事業委員会

- カチプール・メグナ・グムティ第2橋建設工事  
工事報告  
～ バングラデシュ初となる大規模鋼橋架設工事 ～

休憩

## 第2部(特別講演)

15:35~16:35

【演題未定】

岐阜大学 工学部社会基盤工学科  
准教授 木下 幸治

16:35~16:40 閉会の辞 (公社)土木学会 中部支部

支部長 堀田 治

## 開催会場

東京地区 : 10月02日(金)  
 大阪地区 : 10月07日(水)  
 東北地区 : 10月16日(金)  
 北海道地区 : 10月23日(金)  
 九州地区 : 11月06日(金)  
 中部地区 : 11月13日(金)  
 (6地区開催ですが、発表テーマは異なります)

日 時 令和2年11月13日(金)

13:00~16:40

会 場 東建ホール・丸の内 (東建本社 3F)  
名古屋市中区丸の内 2-1-33

申し込み Web サイト <http://www.jasbc.or.jp/>  
受付は令和2年10月2日~10月30日

※申し込みは、Web サイトのみです。

継続教育 CPDS 認定予定

## 資料配布

論文およびPPTのpdfは事前にWebサイトにアップ  
致しますので、必要に応じて出力し持参願います。

## 発表概要

### 【製作・溶接・防食に関する研究】

製作小委員会は、製作部会、防食部会、耐候性鋼橋梁部会の3部会から構成されます。

製作部会では、裏波ビードを有する片面溶接の疲労強度など、溶接を主体とした研究を行っており、昨年度から組立溶接の規定緩和に向けた研究を行っています。また、i-Constructionへの取り組みとして、鋼材検査証明書(ミルシート)の電子化の検討を行っています。防食部会では、防食の観点からの鋼構造物の耐久性向上を目的とした研究を行っています。腐食環境の厳しい沖縄県に位置する暴露試験場において、橋梁上部工を模した大型試験桁を用いて新規塗料および金属溶射の比較試験、部材面取りの要否確認試験など実施しています。耐候性鋼橋梁部会では、新しい技術を用いた既設耐候性鋼橋梁のさびの評価方法について研究しており、最近では、点検時の外観評価から補修の必要性を判断する方法を検討しました。また、耐候性鋼用表面処理剤を塗布した鋼材の外観の経年変化は製品によって異なるため、暴露試験により経年変化の特徴を確認しています。

本発表会では、製作小委員会3部会の研究成果や途中経過の概略について発表します。

### 【疲労に強い鋼床版と取替え鋼床版】

鋼床版は、軽量であり架設期間を短縮できることから、都市内高速道路や長大橋に採用されてきました。しかし、大型車交通量の多い路線の鋼床版から疲労損傷が発見され、疲労対策が必要になってきています。鋼床版の疲労損傷は、1990年代中頃より報告が増加していますが、疲労設計が行われていない橋梁での報告が多く、疲労耐久性向上の余地があると考えられています。本発表では、近年の橋建協の取り組みとして、官学と協力して行っている高耐久化への取り組みを紹介します。

また、近年実施例が増えている既設RC床版の更新工事にも鋼床版が使用される例があります。本発表では、取替え鋼床版のニーズと利点を整理し、調査した取替え鋼床版の事例紹介をすると共に、いくつかの諸元を系統的にまとめ、設計・施工上の特徴や留意点について報告します。

### 【カチプール・メグナ・グムティ第2橋建設工事 工事報告】

本橋が架設される首都ダッカと第2の都市チッタゴンとの間はバングラデシュのGDPの5割を占める重要な経済回廊です。近年の交通量増加により当路線の各地で慢性的に交通渋滞が多発していたことを背景に、2008年から当局は同路線を2車線/4車線から6車線/8車線とする拡幅工事を進めており、3橋の建設工事はその一環となりました。

3橋は細幅箱桁を主桁とした合成床版を有する連続桁です。全橋送出し工法が採用されており、3橋の内最大橋長となるグムティ第2橋では、橋長1410m全量を両岸から送出す大規模な送出し架設を実施しました。

本発表では、バングラデシュ初となる大規模鋼橋架設工事から得られた技術的知見や直面した課題について発表し、同国での鋼橋架設工事に活かされる事を目的とします。